

内視鏡下胃瘻造設術・内視鏡下胃瘻交換：説明及び同意書

1. 適応

胃腸に問題がないにもかかわらず、脳血管障害、認知症、交通外傷などで摂食障害となり、低栄養の状態や誤嚥性肺炎を繰り返す方に対して適応があります。

2. 目的

点滴や経鼻胃管による苦痛を取り除くことができます。

腸管を使うことにより免疫力が上昇するほか、栄養状態の改善と誤嚥性肺炎の頻度を減らすことが期待できます。その他に、内服薬を注入することが可能となります。

3. 方法

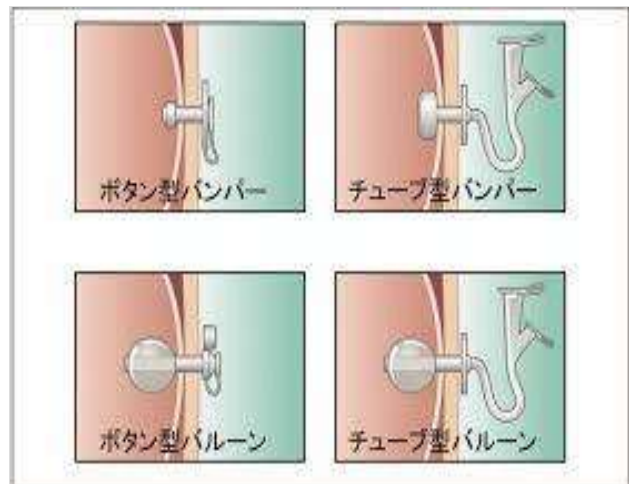
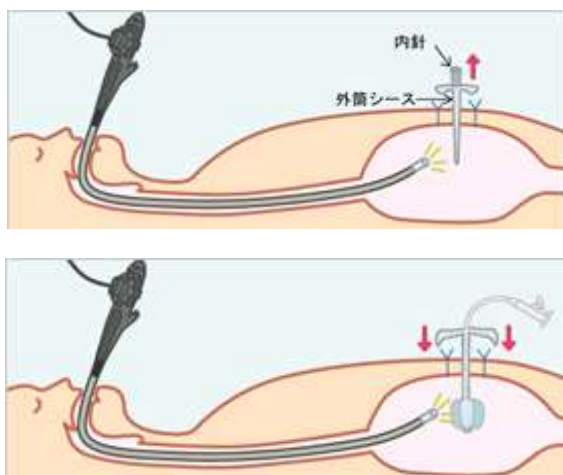
①内視鏡下胃瘻造設術 (Percutaneous endoscopic gastrostomy : PEG)

経鼻内視鏡にて胃を膨らませ、胃壁と腹壁を密着させ固定した後に、経皮的に胃瘻の造設を行います (図1)。

※必要に応じて、鎮静剤を用いて安静を保ちます。その場合別途 2,200 円のご負担をいただきます。

鎮静剤の副作用として、呼吸抑制や不整脈、血圧変動が出現することがあります。副作用が発生した場合は速やかに対処し、改善が無ければ造設術を中止します。

②内視鏡下胃瘻交換 3~6ヶ月ごとに、内視鏡下に交換を行います (外来にて交換可能)。



4. 合併症

重篤な合併症 ① 他臓器損傷 (腸管穿孔などによる腹膜炎) ②出血 ③誤嚥、呼吸不全

軽度な合併症 ① 瘻孔周囲炎 ②皮膚潰瘍

万一、合併症が発生した場合には、輸血や緊急手術も含め速やかに対処させていただきます。

治療予定日： 年 月 日

説明： 年 月 日 説明医師： _____

同席者(看護師)： _____ 確認者(看護師)： _____

一般財団法人 医療・介護・教育研究財団 柳川病院 殿

以上の説明を受け、検査の必要性、内容、偶発症について理解し、本治療に同意します。

年 月 日 患者氏名： _____ 印

年 月 日 保証人氏名： _____ (続柄) 印

同席者氏名： _____ (続柄) _____

一般財団法人 医療・介護・教育研究財団 柳川病院